

インドネシアの金利引き下げについて

2016年3月18日

インドネシア中央銀行は3月17日（現地時間）、定例の金融政策理事会を開き、政策金利であるBIレート（Bank Indonesia レート）を0.25%引き下げ、6.75%とすることを決定しました。2月に続いて、3会合連続の利下げ決定であり、併せて翌日物預金ファシリティー金利と貸出ファシリティー金利もそれぞれ0.25%引き下げられました。

《利下げの背景について》

インドネシア中央銀行は、今回の利下げ決定の理由として、今後の経済成長の底上げのためにさらなる内需刺激が必要との考えを述べており、そのうえでインフレ圧力の緩和見通しやグローバル金融市場の安定化により追加金融緩和余地が拡大しているとの認識を示しました。

インドネシア国内の経済は、世界的な景気減速と資源価格の低迷で輸出部門は苦戦を強いられそうですが、政府支出の拡大基調が続いていることや家計消費が堅調なことから、中央銀行は2016年のGDP成長率を前年比5.2～5.6%程度と見込んでいます。

経済成長の加速と物価の安定を好感したとみられる海外からの資金流入は引き続き旺盛で、インドネシア・ルピアは底堅く推移しています。

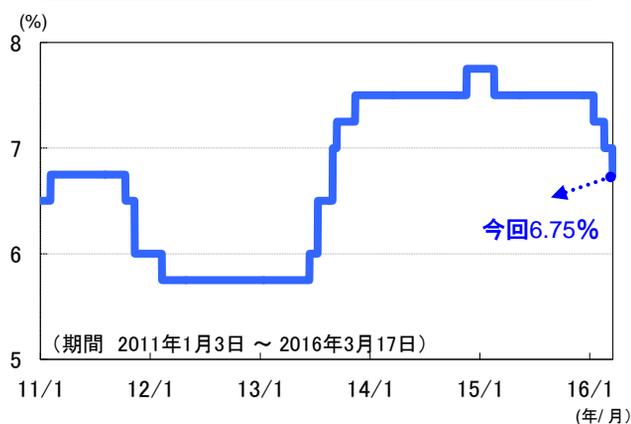
《今後の見通しについて》

2015年は、年前半は輸出の不振や政府予算の執行の遅れなどから、インドネシア国内の景気は停滞気味に推移していましたが、年後半になってインフラ投資に伴う政府支出の回復が、ようやく景気底上げに寄与するようになりました。

また、物価に関しては、2015年11月以降、消費者物価指数（CPI）の伸び率は大幅に鈍化してきており、中央銀行の定めるインフレ目標の範囲内に収まってきました。

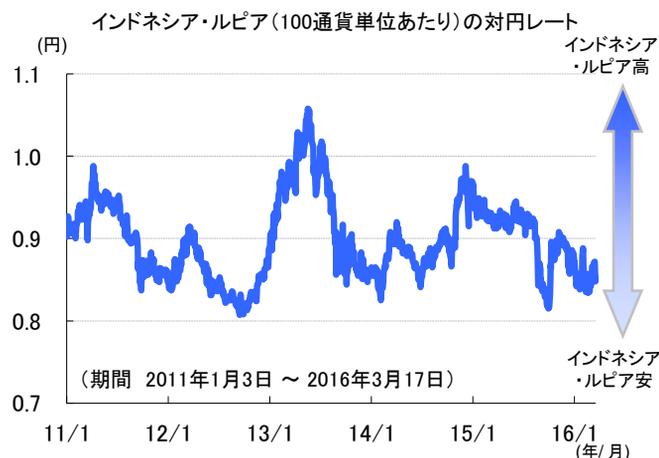
今後のインドネシア・ルピア相場は、中国景気の動向、新興国市場全般に対する投資家心理の変化といった外的要因には注意が必要です。しかしながら、インドネシア国内の経済の成長加速と物価安定を背景に、引き続き投資資金の流入が期待できることから、インドネシア・ルピアは底堅い動きを維持するとみています。

《インドネシアの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《インドネシア・ルピアの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。